

全全區順慶四丁目四六

木村 貞一

全全鍛冶屋町二三九

佐山 鐵三

以 上

寄 書

日本水彩畫會大阪支部寫生行

大阪 大隅 直造

三月一日、日本水彩畫會大阪支部の第一回寫生行は、阪神電軌沿線佃附近に開かれた。當日は幸に好晴にして、寫生日和とても云ふべきか、天は吾等の舉を賛したのであらう。午前七時半梅田に會員中の有志一同集合なし、同五十分電車に打乗りて出發す。間もなく、大和田に着し、こゝに下車なして徒歩佃に向ふ。途中には見るべき畫題も多くありて、足を止むる事も屢々なりしも、總て午後割愛なして、程なく目的地なる佃に達す、鐵橋を越えて小川のほとりにSK、KY、SSの諸君と僕とは三脚をすへた、無言にて筆を運ばす事約二時間、一同寫生を終り、SK君の批評及注意等あり。それより、晝食を喫して大和田の森を寫生に行く。MO君は何處に行かれしか、數度呼べども答へもなし、かれて約束もあれば其儘に行きて、適當の場所に腰を下して森の輪廓の漸く終りし頃、さしにも晴れし空は、いつか雨雲に掩はれて、果ては雨さへ降り初め、一同の口より思はず残念の一聲は洩れた、然し幸にして後方土堤下に新築中の家ありしかば、直ちにその中に入りて、引續き寫生をなす。

時雨と思ひし雨は、漸やく降りつゝのりて今は致し方もなく、遂に中止となり森の圖の終ると共にOM君と歸り來られしかば、打揃ひて歸路に就く。斯くの如く第一回は不成功に終りしも、近日第二回舉行の議あり、當市附近の同好者諸君、來りて僕等と行を共にせずや。

面 影

和歌浦 不 圖

檣の梢をよする寒風がどう／＼と、大波でも寄すなかの様な音のする日は實に寒い。日曜には至つてこんな片輪な日が多い。今日も矢張り片輪の域を脱することの出来ない程寒い日和だ。吾が輩は別にこんな日を好んだ譯でも撰擇した譯でもないが、不斷ずばらな男は、何の因果かこんな日に巡り遇ふことが珍らしくもなければ別に取り立てて不思議がる暇もないからカバンを肩に郊外に出た。

探し廻つて居ると小さな丘が大きな山に捨てられた様に、田圃の中に獨り座はつて居る。中腹から上は若松が並んで、天氣の都合でホワイトを多く含んだ綠色を示して居る。下は黄色を多分に有つた枯草が奇麗に包んで居る。一寸ものに成り相だから始めることにした。

輪廓を終る迄は、歩行した勢で稍我慢も出來たが、着色にかかつた頃は、足の爪先から手先と言つた順序に小振動を始め、遂に全身に及んで來た。「既に我が事止ぬる哉」と言ふ文句は恐らくこんな場合に間に合ふ逃げ道で、墮落に進む一里塚だ。進む